

研修から見える音楽科の授業改善の視点

1 はじめに

音楽科の研修では、小学校においては担当する日々の授業が幅広い教科にわたる状況から、中学校・高等学校においては教科担当者が学校で一人である場合が多いということから、先生方は様々な課題を持って参加されます。研修に際しては、それらの授業実践についての課題を協議する場を設けています。校種や経験を越えて、話し合いの中からは次のような課題が多く挙げられています。

- ・授業の組立て
- ・読譜、歌唱、器楽等の技術・技能の定着のさせ方
- ・創作、鑑賞の指導と評価
- ・児童生徒の学習意欲の向上

2 研修の実際

協議による課題を受けて、一人一人の先生方の実践から問題の所在と解決につながる糸口を探るため、校種及び研修の段階に応じて模擬授業や指導案の検討により、よりよい授業づくりを目指す取組みを行っています。また、研修の規模等に応じて、教科相談員の先生方の御協力を得るなど、限られた時間の中でできるだけ実践的な研修になるよう努めています。さらに、外部講師の先生方による講義やワークショップにより、児童生徒の創造的な学習活動を実現するためのヒントを学ぶ機会を設けています。

今年度は、大学の先生やプロの演奏家の先生方による創作、鑑賞、日本の伝統音楽などの内容を通じた研修を行いました。



3 研修者の感想より

今年度の基本研修において、研修者の先生方から寄せられた感想から抜粋を紹介します。

《外部講師の演習を通して》～【専門性の向上】

鑑賞の教材研究の仕方、身体表現の使い方など具体的に体験しながら学ぶことができた。すぐ授業に生かすことのできる内容だった。また、スモールステップで積み重ねていくことの大切さなどを学んだ。(小経Ⅱ)

《学習指導案の検討を通して》～【学習指導案の検討・精査】

「表現の工夫」という点において、どのようにすべきか迷っていたが、(想定した題材での)具体的な手立てがわかった。日ごろの積み重ねが大切であり、基礎となる学習事項をその教材にどう取り入れ、生かしていくかを考えることが教材研究の核であることが分かった。(小経Ⅱ)

《模擬授業と研究協議を通して》～【授業研究の大切さ】

模擬授業を通して、技術だけでなく、ねらいの大切さを学ぶことができた。自分の教材研究の足りなさを痛感した。(中経Ⅰ)

《模擬授業と指導案の検討を通して》～【より深い教材研究】

学習指導案のねらいの具現化のためには、徹底した教材研究が大事であることを再認識した。(高経Ⅱ)

4 おわりに

音楽科の授業では、幅広い活動を通して音楽の面白さや喜びを味わわせることがベースとなります。しかし、単に活動することを楽しむだけでは教科の目標を達成することが難しくなります。活動を通して児童生徒に何を教え、身に付けさせるのか。すなわち、教材となる楽曲等のどの部分をどのように扱うことにより、児童生徒のどのような変容を期待するのかを、授業に当たって各々の実態の中で明らかにする必要があると言えます。それらは、校種を越えた課題に対するかぎとなることでしょう。

教材分析の在り方、題材のねらい・指導観を見つめ直すことが、児童生徒にとってより学びがいのある音楽の授業、学んだことから新たな発見や楽しみへと広がる音楽の授業をつくるための基盤となることを心がけたいものです。